



Title	上ノ国高校における職場体験学習の取り組みについて
Author(s)	倉部, 静雄
Citation	公教育システム研究, 1, 97-119
Issue Date	2001-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/22052
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_P97-119.pdf



上ノ国高校における職場体験学習の取り組みについて

倉部 静雄

目 次

1. はじめに
 2. 本校の概況
 3. 本校における職場体験の実施にあたって
 4. アンケートより
 5. 課題・まとめ等
- <資料>

1. はじめに

高等学校を卒業後の高校生の進学率は上昇の一途をだどり、文部省の「学校基本調査」では2000年3月卒業生で大学等へ進学率は45.1%と過去最高となった。およそ、2人に1人が大学等へ進学をしていることになる。

専門学校においても大学への特別入試枠の設置など積極的な受入策や、社会の変化に敏感に対応した人材の育成をするという評価が定着してきており、専門学校への進学率はここ数年16%台を推移し、2000年3月卒業生では17.2%となった。

今後は、18歳人口が年々減少しているにもかかわらず、大学・短大等の入学定員数がそれほど減少していないこともあり、文部省の試算によると、2009年には進学希望者が大学等の入学定員数とほぼ同数となり大学進学は容易なものになり、数字的な面だけを見れば、必ず大学には入れる”志望者全入学時代”がやってくる。

しかし、我が国の大学等の高等教育機関の8割が私立という今日の設置形態では、進学時にかかる初年度納付金は、年間100～150万円程度で、さらに生活費にも納付金と同程度程度の負担がかかる。このほとんどを保護者の負担に頼っているのが現状であり、年々保護者負担が大きくなっている。昨今の経済状況から進学を断念せざるを得ない生徒も多く出ている。そのため、学費全額免除・半額免除などの特待生制度を設定している学校が増加している。

就職については、1992年春にはおよそ1/3(33.3%)を超える生徒が就職していたが、1995年春には4人に1人(25.6%)、1999年春には5人に1人(20.2%)、2000年春にはついに20%を割り込み、18.6%となり過去最低を更新している。

この背景には、進学志向という高校生の意識の変化と、不況による企業の雇用形態の変化、つまり正社員から派遣社員やパートなどの不安定雇用による企業の人件費削減による新規学卒者の採用抑制があげられる。また、4年制大学卒業者や短期大学卒業者が以前高校卒業者の占めていた職域に進出し、求人件数の減少だけでなく職種の種類も高校生の希望となかなか合わなくなりつつある。

それに加えて「とりあえず、フリーターでもいい」という価値観から、正社員となることを希望しない無業者が増加している。無業率は10.0%と昨年より0.7ポイント上昇し、10人に1人が無業という状況になっている。

このような高校生の進路状況を考察しながら、職場体験について考えたい。

資料 1) 2000年3月卒業生の進路状況 (全国)

大学等進学	45.1%
専修学校等進学	25.9%
就職(難関校を除く)	18.6%
無業者	10.0%

平成12年度「学校基本調査」文部省

資料 2) 高卒予定者への求人倍率の変化

年	92	93	94	95	96	97	98	99	00
倍	3.32	3.03	2.39	1.82	1.63	1.68	1.79	1.43	1.16 (1月末)

資料 3) 新規学卒者の在職期間別離職率の推移

	入社1年目で離職	2年目	3年目	勤続者
平成8年3月卒	24.0	14.8	9.3	51.9
平成9年3月卒	24.6	13.7		61.7
平成10年3月卒	23.7			76.3

労働省

出典：文部省学校基本調査

リクルート社 キャリアガイダンスより

2. 本校の概況

上ノ国高校は昭和57年に上ノ国町などの4町組合立で設立・開校され、昭和59年に道立移管された比較的歴史の浅い普通科の1学年2間口の小規模校で、生徒数は(H13.2現在)110名(男子49名、女子61名)である。入学生はほぼ全員が町内の出身で、他市町村出身者・入学者は少ない。教職員数は24名で平均年齢が約27歳と若く活気に溢れた学校である。しかし、今年度の人事異動により新採用3名、期限付教職員5名が転入し生徒の教育環境面での校内体制には不安定な一面もある。

隣町江差町には、江差高校(普通科5間口)・江差南高校(機械科・事務情報科各1間口)の2校があり、上ノ国町内出身の中学生が多数通学している。町外の高校へ中学校卒業生の50%前後が進学をしているのが現状である。

来年度より、町内の中学校が上ノ国中学校1校に統合され、今年度より道教委の指定を受けた「連携型中高一貫教育実践研究事業」が、来年度は「基礎基本の学力の定着」と「地域学習」を中心とした研究に重点をおいて研究を深化させていく予定であるが、それに伴い職場の多忙化が起こりつつあるのも現状である。

生徒は素直で明るく思いやりの心も持ち合わせ、人の嫌がることやボランティア活動などにも積極的に取り組む生徒が多い。その反面、幼少より共に生活してきたもの同士が多く、家庭環境からか一部の生徒には嫉の面やけじめのなさが目立つ。それは、服装や言葉遣いなどに顕著に見られる。家庭環境における問題では共稼ぎや出稼ぎから子どもを十分に教育する環境には乏しいといえる。また、多少の事は容認してしまうという家庭も多い。

本校を卒業した後の進路については、例年は就職7割・進学3割という状況であるが、今年

度は保護者の経済的な問題もあり、就職希望者が8割・進学希望者が2割となっている。就職希望者は地元就職志向が強いが、道南圏での景気低迷により求人数が減少していることもあり、札幌圏や本州方面へ就職するよう指導している。地元へ残る者は、女子は公的機関の臨時採用や縁故就職など、男子は土木・建築・技術・技能関係への縁故就職などが目立つ。

進学は、ここ数年4年制大学、短期大学で2～4名、看護系2名程度、専修・各種学校が約10名ほどという状況であり、札幌・函館方面への進学がほとんどである。

3. 本校における職場体験の実施にあたって

本校では、①就職希望者が例年約7割近くを占めている反面、就職後に早期に離職する生徒も目立っている。これは、働くことについて十分認識しないことや、会社を十分理解せずに入社したために、間もなく退職ということもある。資料3)のように、高校卒業後3年間で約5割という離職率は、本校も該当している。

②進学志向という高校生の意識の変化と不況から来る企業の新卒採用抑制があるため、大卒や短大卒が以前高卒の占めていた職域への進出が目立ち、経営効率化のもとに、業務の高度化・分散化が進み、専門性のある人材やパート・派遣社員へ人材ニーズが移っている。

以上のような厳しい環境の中、本校でも対策の必要性を感じ、「企業等における体験学習を通して労働の喜びや厳しさを学ぶことにより、自己の能力・適性について理解を深める。また、地元の企業を理解するとともに地域社会との連携を深めながら社会生活に適応し、正しい職業観・勤労観の育成に努める。」という趣旨のもと職場体験学習を今年度より実施することとなった。

実施計画は平成9年度より職場訪問や職場体験などの体験学習を導入するという計画があったが、資料収集や準備等校内体制づくりに時間がかかり、昨年度学校課題解決のための視察研修で、厚真高校及び由仁商業高校を視察するとともに、上ノ国中学校での実践資料などを参考に今年度導入の計画を昨年度末の職員会議で決定した。

実施にあたっては、対象生徒を第3学年36名全員とした。計画段階では希望生徒のみの実施を検討していたが、不参加生徒の対応や、「高校生も数年後には全員が何らかの職業人となる」という考えのもと全員参加とした。

体験日数は2日間、職場は上ノ国町内の事業所とし、基本的には学校から歩いて通勤できる範囲とし、町役場に勤務している本校PTA副会長の協力のもと、上ノ国中学校で実施した企業の資料を参考に14事業所に依頼を行った。

また、巡回指導を進路指導部・第3学年担任を2班に分けて、午前・午後各1回ずつ巡回指導を行った。この結果、学校では普段見られない生徒の一面を見ることができた。

職場体験学習の実施にあたり、以下の業種・事業所にご協力をいただいた。

- ①事務（3名）：若狭組・安田組・加賀谷産業
- ②販売（4名）：ショッピング小林
- ③福祉（2名）：かみのくに荘
- ④保育（4名）：上ノ国保育所
- ⑤発掘（4名）：発掘事務所（町教委文化財課）
- ⑥消防（4名）：上ノ国消防署
- ⑦建築（4名）：若狭組・小林建設・安田組・京谷建設
- ⑧レストラン（1名）：レストランもんじゅ

- ⑨食堂（1名）：どばそば和家
- ⑩美容（2名）：ヘアーサロンユウ
- ⑪自動車整備（7名）：小林自動車整備工場

4. アンケートより

職場体験学習の実施に際して、生徒には日誌への記入・提出をさせ、事業所側にはアンケートを依頼した。

生徒の声として、「疲れた」「大変だった」という声が多いが、それだけでも賃金を得るといふ、日常の保護者の苦勞が理解できたのではないかと感じた。また、「充実した」という意見も多く、事後指導で教員が普段から指導している、「礼儀・挨拶」についても、第三者から指導してもらうことにより、生徒への効果は大きかったといえる。

企業から回収したアンケートを集計したところ、「時間を守る」「仕事への取り組みや態度」「礼儀・挨拶・言葉遣い」に関しては半数以上の企業から良好という回答を得ることができ、教員の反省部分でもあるが、生徒自身が校外での生活態度を区別していることがわかる。

また、「次年度以降の実施」に関してもほとんどの企業で協力を得ることができそうであるが、2日間の実施日数では、「事業内容を理解するには少ない」という声があり、内容等について意見交流を深めて充実を図りたい。（別添資料）

5. 課題・まとめ等

本校では、進路指導を「3年間を見通した進路指導計画」に基づき実施している。

「学年別進路指導目標」は以下のとおりである。

- 第1学年 自己理解を促すとともに、進路に対する意識を高め、高校生活の目的を明確にし、進路の基本的な方向付けを行う。
- 第2学年 自己理解を深めるとともに、進路目標に対する情報収集・研究を促し、進路先を明確化させる。
- 第3学年 進路目標達成のために主体的に取り組む姿勢を培うとともに、社会人としての心構えを養う。

以上の計画の中から、3年次の目標の一部として職場体験学習を実施している。

今年度は準備段階から、実施までに実質1カ月程度しか期間がなく、準備不足は否めなかった。また、実習を終えた後に、発表会の実施予定を立てていたが、考査や学校祭などの学校行事と錯綜し、実施できなかったなどの反省点などがあげられる。

事業所に対しても、学校からの礼状だけでなく、生徒自身の礼状、感想文集の作成などが行えず、次年度以降の課題といえる。

次年度以降は、職種もさらに多くし、新カリキュラムでの「総合的な学習の時間」の導入も考へて、①数週間から数ヶ月という長期間にわたる体験。②1学期、2学期で異業種の体験。③2年次と3年次での体験などについて検討していきたい。また、上ノ国中学校3年次において、5年程前から1日日程で実施していることから、中高連携した職場体験学習を通じて、複数の職業を体験させ、幅広い進路指導を行うことなどが考えられる。

昨年11月24日には先進的な実践をしている小樽明峰高校への学校視察を実施し、教科「社会体験学習」についての取組状況や課題・改善点を教示していただき、新年度に向けて、年度内に一定の方針を示したい。

また、実際に生徒の職業指導に入る際に、職場体験で得たことが実を結んでいるか調査する必要がある。

職場体験学習は、道南地区では本校の他に木古内、大成、瀬棚商業、福島商業、江差南、恵山、函館西などの各高校で実施している。また、今年度全道では約100校が実施予定であり、全道の高校の1/3が何らかの形で職場体験学習を行っていることになる。

学校によっては生徒の実状や地域の事情により、実施できない学校もあるというが、平均的には2～5日程度、3学年での実施が多いようである。期間や地域性を考慮した上で、各校に適した実習を行っているが、本来的には低学年での職業観や勤労観の育成が望ましいようである。

就業体験については、①職場実習の意義として、イ. 普通科高校と中学校の進路指導的な面で行うもの。ロ. 専門高校の教科指導の一環として行うもの。②職場実習の実施方法として、イ. インターンシップは最低2週間から数ヶ月位の長期間で行われるもので単位化されるもの。ロ. 職場体験・就業体験学習は短期間の進路指導的なもので普通科高校や中学校で行われるもの。ハ. 現場実習は専門高校で行われるもの。ニ. 職場見学。に大別される言われている。

就業体験については、①三日間などの短期間の実施で働くことの意味や意義が理解できるか。②なぜ働くかという職業観の育成の必要性がある。③ブーム的に職場体験学習が行われ、事前事後に重要なことは何かを指導しているのか。④自分づくりができるか。⑤マンネリ化への対応。⑥体験することによって就業することが嫌いになったりしないか。⑦ひとつの職場だけではなく、多くの仕事を体験させる必要性がある。などの意見があり、我々の取り組みについてもチェックしていく必要があるといえる。

職場体験学習によって、企業の求人と直接結びつくわけではないと考えていたが、一部の企業より求人をいただいたり、地元企業の方より職場体験についての協力受諾をいただくなどの一定の評価をいただいた。今後さらに、地域に根ざした学校づくりの一環として、地域の声を取り入れて取り組んでいきたい。地域の事業所も「地域の企業として地域の発展のために協力したい」という声が多く、予想よりもはるかに好意的であり、この声を生かして、「生徒一人一人が学校の代表」として自覚を持たすことのできる職場体験学習を実施していきたい。

本校のホームページ及び、メールアドレスは以下のとおりです。

URL <http://www.tokeidai.co.jp/edu/kaminokuni/index.htm>

E-mail kaminoku@cocoa.ocn.ne.jp (職員室)

s-kurabe@pop11.odn.ne.jp (個人用)

※今後とも、多くの情報交換ができればと思っています。

平成12年度

3年間を見通した進路指導計画について

月	第3学年		第2学年		第1学年	
	進路指導部主体の指導	HR主体の指導	進路指導部主体の指導	HR主体の指導	進路指導部主体の指導	HR主体の指導
	進路目標の確定と達成の準備		進路目標の確立		進路指導の概略の理解と、進路目標の調査	
4	<p>月間目標 進路目標の確定と達成の準備</p> <p>始業式 入学式</p> <p>進路ガイダンス：進路決定までの流れ、年間の進路指導計画 進路状況の見通し、推薦についての理解・ Learning Club 希望調査 進路相談：進路目標のあいまいな生徒に対する援助 進路調査：進路目標の確認</p>	<p>①個人面接事前指導 ：礼法・言葉づかい</p>	<p>進路ガイダンス：進路案内 推薦について、資格について Learning Club 希望調査 進路調査：進路目標の確認 進路適性検査</p>	<p>①進路先の研究</p>	<p>Learning Club 希望調査 進路調査：進路目標の確認</p>	<p>①高校での進路 指導の流れの把握</p>
5	進路先が求める人物像に向けての各生徒の課題の把握		進路目標達成に向けて具体的な取り組みの開始		自己理解の促進	
	<p>生徒總會 中間考査 親睦誌</p> <p>個人面接指導：礼法、言葉づかいの最終確認</p>		<p>②個人面接事後指導 ：反省、次回への課題の確認 ③中間考査事前指導</p>	<p>②進路目標の具 体化・明確化 ③情報精研</p>	<p>進路ガイダンス：自己理解 の援助・高校での学習成績 ・校内外生活の重要性につ ての理解</p>	<p>②個人別カード 作成 ③情報精研</p>
6	進路先が求める人物像に向けての努力		進路情報の研究、取り組みの定着化		職業について知る	
	<p>高体連 宿泊研修 職場体験</p> <p>職業指導講座：職安担当者又は地域の人材による 公務員説明会：出願・受験の時期について、併願について 職場体験学習：自己の能力・適性を知る態度、職業観・勤労 観の育成 求人開拓希望調査：教員による開拓の基礎資料 保護者向け進路手続説明会：進路手続きの確認、学校推薦に ついての周知 進路調査：進路目標の確認</p>	<p>④進路関連書類記入 方法 ⑤求人票の見方 ⑥期末考査事前指導 ⑦校長教頭面接指導</p>	<p>進路相談：進路目標のあいまい な生徒への援助</p>	<p>④職業に関する 理解の深化 (資格の必要な 職業について) ⑤期末考査事前 指導</p>		<p>④社会のいろ いろな仕事につ いて知る ⑤期末考査事前 指導</p>
7	進路目標確定のため具体的にに取り組む		進路情報の研究		職業観の育成	
	<p>期末考査 お祭り 学校祭 夏期休業</p> <p>集団面接指導：進路目標別グループによる 進路資料室の活用</p>	<p>⑧求人票教査掲示 ⑨進路先の最終確認 ⑩休業中の各生徒の 目標の明確化 ⑪集団面接事前指導 事後指導</p>	<p>進路資料室の活用</p>	<p>⑥上級学校に関 する理解の深化 ⑦休業中の課題 の明確化</p>		<p>⑥仕事の分組と 責任</p>

月間目標	進路決定に向けての具体的な手続きの開始		自己理解の研究と深化		進路情報の提供・進路について考える		
8	夏期休業 求人開拓 既開校	<u>校長・教頭面談</u> : 面接の仕上げ <u>進路ガイダンス</u> : 求人状況の説明	①校長・教頭面接 事前事後指導 ②個別指導 (進路先 の確定)		③適性検査結果 の活用 ④家庭の状況と 意見について		
月間目標	進路決定に向けての具体的な手続きの開始・進路先の決定を期する		職業についての知識の深化		進路情報の提供・進路目標の明確化		
9	体育祭 練習試合 運動会 模範校	<u>校長・教頭面談</u> : 8月からの継続 <u>就職希望記入・送付</u> <u>内定者事後指導</u> : 内定後の生活、礼状発送 (以後継続)	①校長教頭面接事後 指導 ②就職・進学進考直 前指導 ③内定者指導・不合 格者指導	<u>進路調査</u> : 進路目標の再確認 <u>Learning Club 希望調査</u> <u>進路相談</u> : 進路目標のあいまい な生徒への援助	④見学旅行準備 ・集団生活のあり 方 ・進路目標に応 じた各生徒の旅 行中の課題の明 確化	<u>進路ガイダンス</u> : 本校の進 路状況、進路実現の具体的 方策(資格の取得について) 看護・公務員の説明 <u>進路調査</u> : 進路目標の確認 <u>Learning Club 希望調査</u> <u>進路相談</u> : 進路調査を受け ての具体的な相談	①前期の反省、 後期への抱負 ②進路希望の把握
月間目標	進路先の決定を期する		職業についての知識の深化		進路目標達成への道を探る		
10	中間考査 見学旅行 詳細説明 詳細相談	<u>進学希望記入・送付</u> <u>就職第二次進考開始</u> <u>決定者個別指導</u> : 不合格者、未定者に対する援助	・内定者・未定者指 導 (継続) ④中間考査事前指導		①見学旅行にお ける課題の確認 ②特科説明 ③旅行中の課題 の実施状況確認	⑤個人面接事前 指導: 礼法・言葉 づかい ⑥特科説明	
月間目標	良き社会人となるために、残りの高校生活の意義を確認する		進路意識の高揚		進路目標達成への具体的な一歩を踏み出す		
11	お祭り	<u>決定者個別指導</u> : 継続	⑦社会人としての心 構え・マナー ⑧期末考査事前指導 ・内定者・未定者指 導 (継続)	<u>進路ガイダンス</u> : 本年度の状況	④特科説明	<u>個人面接指導</u> : 礼法・言葉 づかいを中心に ①個人面接事後 指導 ②特科説明	
月間目標	良き社会人となるために、残りの高校生活を有意義に送る		進路研究の深化、具体的な取り組みの再確認		自己理解の深化と進路目標への道を探る		
12	期末考査 冬期休業	<u>決定者個別指導</u> : 継続	⑨将来設計 ・内定者・未定者指 導 (継続)		⑤進路情報の収 集と整理 ⑥休業中の課 題の明確化	⑦興味・関心 と進路希望	

本校における職業体教學の取り組みについて

月	第3学年		第2学年		第1学年		
	進路指導主体の指導	HR主体の指導	進路指導主体の指導	HR主体の指導	進路指導主体の指導	HR主体の指導	
1	月間目標 冬期休業 1件研修 予備会 反省会	①進路目標の達成 ②進路目標達成率の向上 ③進路目標達成率の向上	自己理解と自己PR・進路意識の高揚 ①自己理解、自己PRを重点とする ②進路意識の高揚と定着	①進路目標達成率の向上 ②進路目標達成率の向上 ③進路目標達成率の向上	進路情報の提供 ①卒業生の進路状況	①卒業生の進路状況	
2	月間目標 1件授業 1件研修 予備会 反省会	①卒業生の進路目標の達成 ②卒業生の進路目標の達成	自己理解と自己PR・進路意識の高揚と定着 ①自己理解、自己PRを重点とする ②進路意識の高揚と定着	①進路目標達成率の向上 ②進路目標達成率の向上	①進路目標達成率の向上 ②進路目標達成率の向上	①卒業生の進路状況 ②卒業生の進路状況	①卒業生の進路状況 ②卒業生の進路状況
3	月間目標 入学選抜 1件研修 1件授業 1件研修	①進路目標の達成 ②進路目標達成率の向上 ③進路目標達成率の向上	進路目標達成に向けての意識の高揚 ①自己理解、自己PRを重点とする ②進路意識の高揚と定着	①進路目標達成率の向上 ②進路目標達成率の向上	①進路目標達成率の向上 ②進路目標達成率の向上	①卒業生の進路状況 ②卒業生の進路状況	①卒業生の進路状況 ②卒業生の進路状況

学年別進路指導目標	1 学年
	2 学年
	3 学年

①進路目標の達成
 ②自己理解の促進
 ③進路情報の収集・研究・理解
 ④人間としてのあり方・生き方の指導～心を育てる(思いやり、協調性、責任感など)、職業管理、自己管理、個人と集団など
 ⑤進ましい進路意識の育成～働く意識・学ぶ意識、進路意識

[進路指導の重点項目]

- ①進路目標の達成→具体化・明確化→決定→達成
- ②自己理解の促進
- ③進路情報の収集・研究・理解
- ④人間としてのあり方・生き方の指導～心を育てる(思いやり、協調性、責任感など)、職業管理、自己管理、個人と集団など
- ⑤進ましい進路意識の育成～働く意識・学ぶ意識、進路意識

平成12年度 職場体験実施要項

平成12年5月26日
進路指導部

1. 目的：企業等における体験学習を通して労働の喜びや厳しさを学ぶことにより、自己の能力・適性について理解を深める。また、地元の企業を理解するとともに地域社会との連携を深めながら社会生活に適応し、正しい職業観・勤労観の育成に努める。
2. 実施期間：6月19日（月）～21日（水）3日間
ただし、6月19日は事前打ち合わせ日とし、16：00から1時間程度。
3. 対象生徒：第3学年。ただし、参加生徒は保護者の承諾書を必要とする。
4. 体験場所：上ノ国町内の事業所
（受け入れ願先企業については、生徒の希望調査をもとに、後日お願いを兼ねて訪問させていただき、受入人数（男女別）・業務内容・諸注意事項等の確認をする）
5. 職場体験の職種・内容：
職種・内容は各事業所にお任せする。
6. 実施計画：
 1. 生徒希望調査・調整 5月17日（水）
 2. 職員会議（実施の確認） 5月26日（金）
 2. 父母への案内（承諾書）配布 5月29日（月）
 3. 承諾書提出締切 5月30日（火）～ 6月 3日（土）
 4. 企業依頼 6月 1日（木）～ 7日（水）
 5. 企業承諾書回収 6月 9日（金）
 6. 生徒オリエンテーション（講義） 6月19日（月）
 7. 企業・生徒の事前打ち合わせ 6月19日（月）16：00～
 8. 体験学習実施 6月20日（火）～21日（水）
 9. 体験学習のまとめ
 - ・参加生徒→感想文 6月22日（木）に回収。
 - 礼状 6月26日（月）までに。
 - ・企業→アンケート 6月22日（木）に回収。
 - ・全校生徒→体験学習発表会 7月下旬
7. 巡回指導：進路指導部・第3学年を中心に巡回指導を行う。
8. その他：①勤務時間は、それぞれの職場の就業規則に準じて行う。
②報酬は一切いただかない。
③賠償責任保険等へ加入する。
④前日に生徒が打ち合わせに伺い、勤務条件等についてご指導いただく。
⑤体験学習実施終了後、アンケートへ記入していただく。

企業等の体験学習に対するアンケート

北海道立ノ国高等学校
進路指導部

アンケートにご協力をお願いいたします。各項目のあてはまるものに○印をつけて下さい。また、お気づきになられた点などがございましたら、その他の欄にご記入をお願いいたします。

平成12年 6月 日

事業所名

回答者名

1. 体験学習を行った生徒について

(1) 時間を守りましたか。

- ①よく守った ②だいたい守った ③あまり守られていなかった
④その他 ()

(2) 仕事への取り組みや指導を受けるときの態度はどうでしたか。

- ①よかった ②ふつうである ③あまりよくなかった
④その他 ()

(3) 礼儀・挨拶・言葉遣いはどうでしたか。

- ①よかった ②ふつうである ③あまりよくなかった
④その他 ()

(4) 服装・頭髪はどうでしたか

- ①よかった ②ふつうである ③あまりよくなかった
④その他 ()

2. 職場にとって

(1) 生徒の受入れは職場にとってどうでしたか。(1～2つ選んで下さい)

- ①職場の在り方や仕事を見直すよききっかけとなった
②仕事を手伝ってもらい助かった
③良い面も悪い面も特になかった
④指導などで面倒なところがあった
⑤業務に支障をきたし、少々困った
⑥その他 ()

本校における職業体験学習の取り組みについて

(2) 体験学習の趣旨、目的(労働の喜びや厳しさを学び、地域の企業を理解し望ましい職業観・勤労観を育てる)を理解していただけでしょうか。

- ①よく理解できた ②だいたい理解できた ③あまりわからなかった
④その他()

3. 学校での事前指導について

(1) 生徒に対する事前指導で、もっと必要だと思われることは何ですか。(いくつでも)

- ①体験学習の意義 ②職場の様子を知ること ③礼儀・挨拶
④言葉遣い ⑤服装・頭髪 ⑥特になし
⑦その他()

4. 今後について

(1) 学校では来年度以降も体験学習を継続したいと考えておりますが、どのようにお考えでしょうか。

- ①よいことなので来年度以降も協力したい
②よいと思うが、来年度以降協力できるかどうかわからない
③どちらでもよい
④やめたほうがよい
⑤その他()

(2) 来年度以降、実施する場合企業側にとって望ましい時期と最大限受け入れ可能な人数はいかかでしょうか。

- ①望ましい時期
②受入可能人数

5. 体験学習全般について、ご意見、ご感想などがございましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

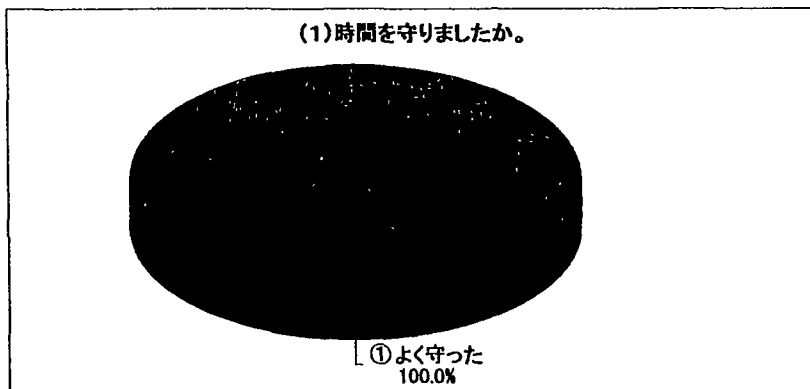
企業等の体験学習に対するアンケート(まとめ)

北海道上ノ国高等学校
進路指導部

1. 体験学習を行った生徒について

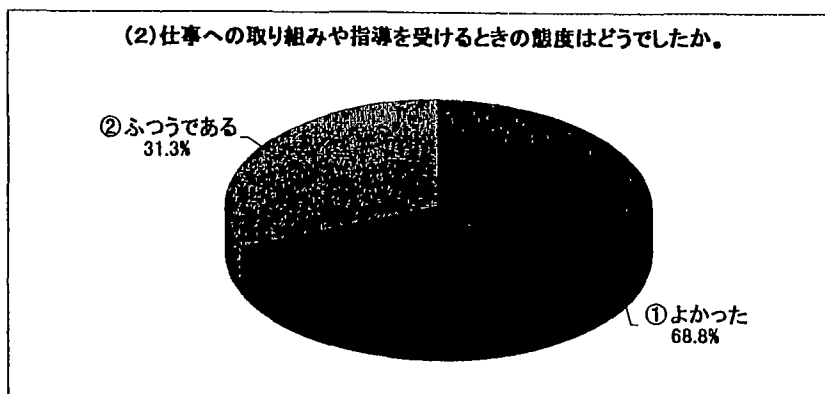
(1) 時間を守りましたか。

①よく守った	16
②だいたい守った	0
③あまり守られていなかった	0
④その他	0



(2) 仕事への取り組みや指導を受けるときの態度はどうでしたか。

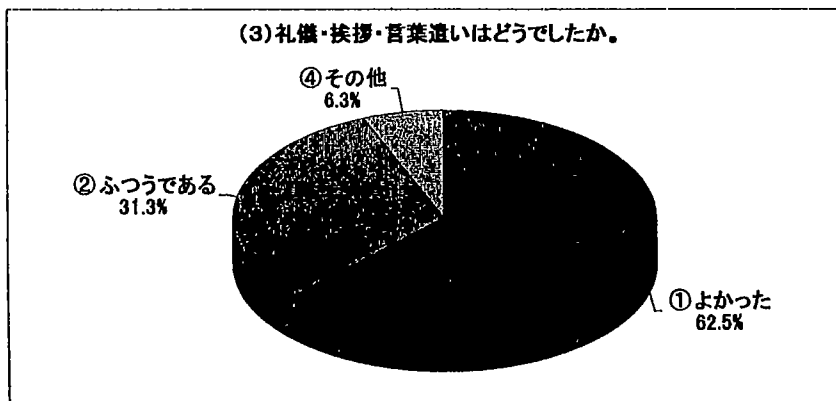
①よかった	11
②ふつうである	5
③あまりよくなかった	0
④その他	0



(3) 礼儀・挨拶・言葉遣いはどうでしたか。

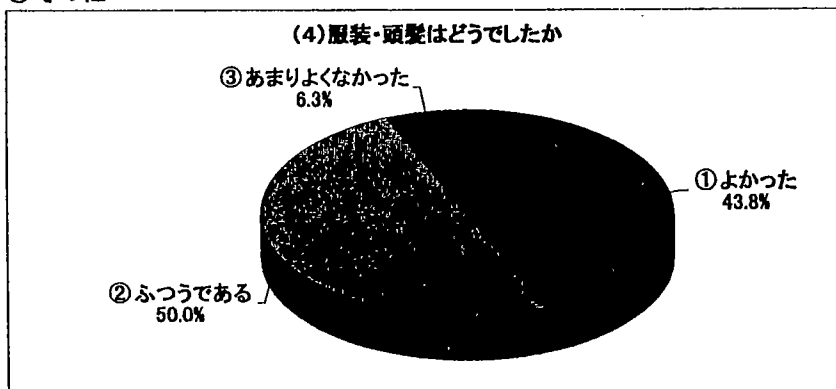
①よかった	10
②ふつうである	5
③あまりよくなかった	0
④その他	1

→少し声を出す様にした方がもっと良いです。



(4) 服装・頭髪はどうでしたか

①よかった	7
②ふつうである	8
③あまりよくなかった	1
④その他	0



2. 職場にとって

(1) 生徒の受入れは職場にとってどうでしたか。(1~2つ選んで下さい)

- | | |
|--------------------------|---|
| ①職場の在り方や仕事を見直すよききっかけとなった | 7 |
| ②仕事を手伝ってもらい助かった | 7 |
| ③良い面も悪い面も特になかった | 3 |
| ④指導などで面倒なところがあった | 1 |
| ⑤業務に支障をきたし、少々困った | 0 |
| ⑥その他 | 5 |

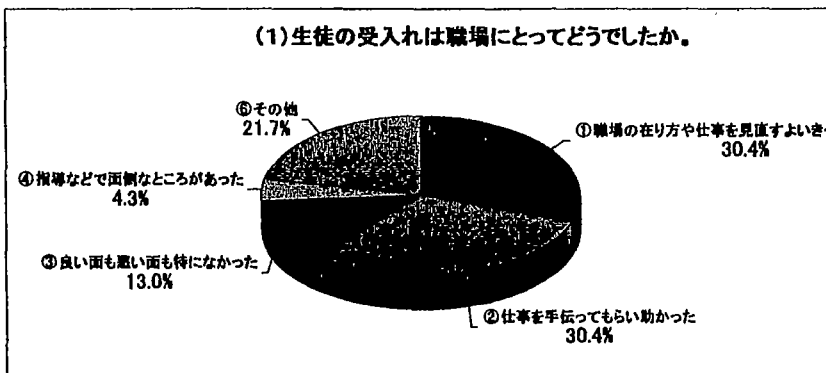
→業務内容に特殊なものが多く、生徒達も戸惑うことが多かったと思う。当方としては、2日間で生徒達に業務のあらましを伝えること自体が難しく、職場体験として適していたのかは、不安が残り、参加した生徒達の感想等を聞きたい。

→職員にとっては、指導的立場の意味からよい勉強になったと思います。

→工程的に手伝ってもらえることは少なかったが、土木工事の雰囲気はわかってもらえたと思う。

→施設のアピールになればよいと思う。入居者が大変喜んでいました。

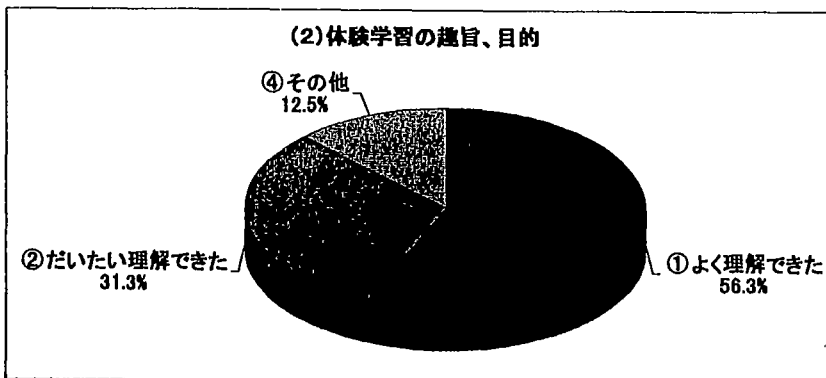
→子どもたちの発達にとっては刺激がとても重要です。そういう意味では”若く・明るく・やさしい”高校生と過ごした2日間は、とても良かったと思います。



(2) 体験学習の趣旨、目的(労働の喜びや厳しさを学び、地域の企業を理解し望ましい職業観・勤労観を育てる)を理解していただけたでしょうか。

- | | |
|-------------|---|
| ①よく理解できた | 9 |
| ②だいたい理解できた | 5 |
| ③あまりわからなかった | 0 |
| ④その他 | 2 |

→2日間の日程では上記目的の達成は難しいと思うが……



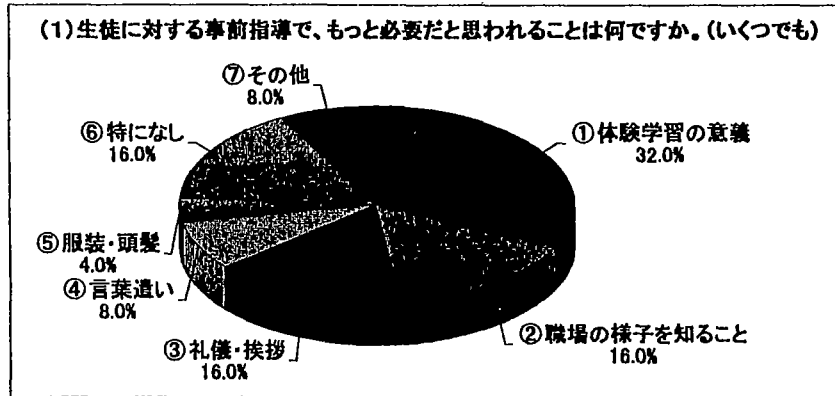
3. 学校での事前指導について

(1) 生徒に対する事前指導で、もっと必要だと思われることは何ですか。(いくつでも)

①体験学習の意義	8
②職場の様子を知ること	4
③礼儀・挨拶	4
④言葉遣い	2
⑤服装・頭髪	1
⑥特になし	4
⑦その他	2

→どのような事を体験してみたいのか事前に知らせて欲しい。

→職場に合った人選を行って欲しい。(性格等)

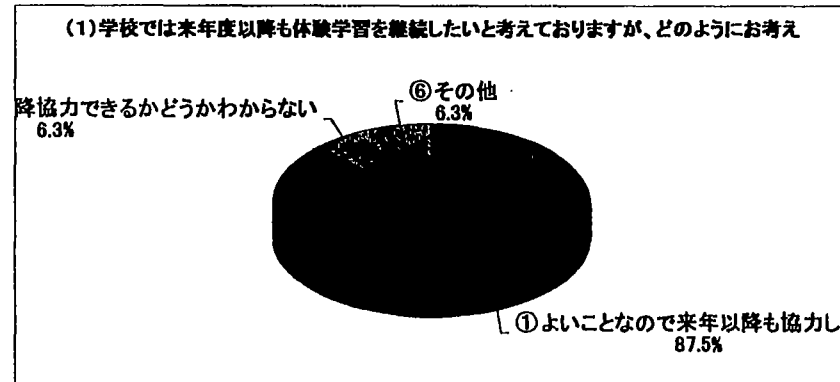


4. 今後について

(1) 学校では来年度以降も体験学習を継続したいと考えておりますが、どのようにお考えでしょうか。

①よいことなので来年以降も協力したい	14
②よいと思うが、来年以降協力できるかどうかわからない	1
③どちらでもよい	0
④やめたほうがよい	0
⑥その他	1

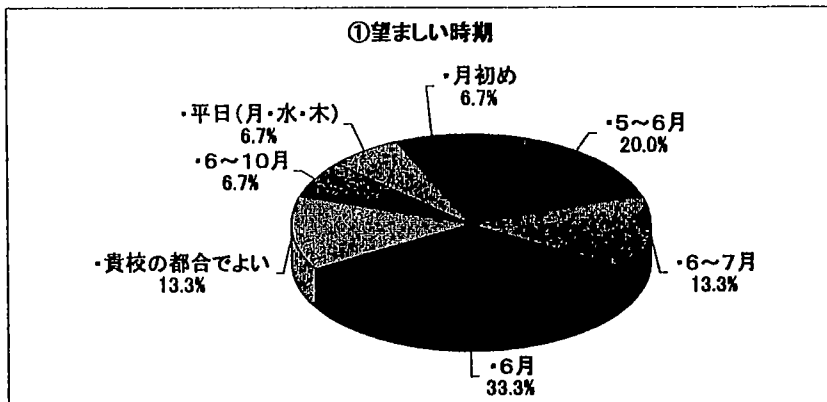
→当方の業務遂行状況次第で対応したい。



(2) 来年度以降、実施する場合企業側にとって望ましい時期と最大限受け入れ可能な人数はいかがでしょうか。

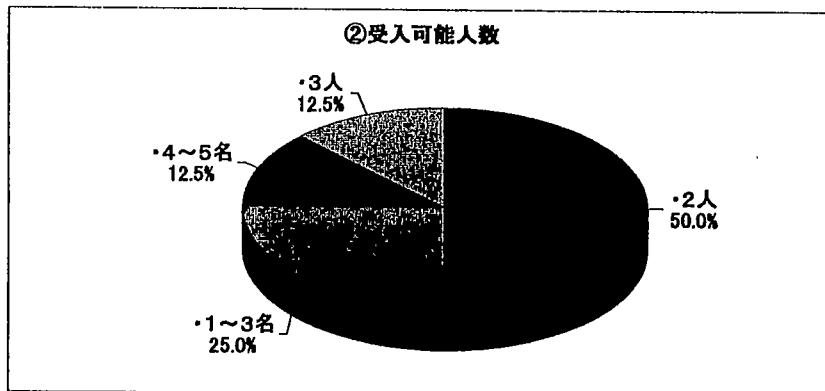
①望ましい時期

- ・5～6月 3
- ・6～7月 2
- ・6月 5
- ・貴校の都合でよい 2
- ・6～10月 1
- ・平日(月・水・木) 1
- ・月初め 1



②受入可能人数

- ・2人 4
- ・1～3名 2
- ・4～5名 1
- ・3人 1



5. 体験学習全般について、ご意見、ご感想などがございましたらお書き下さい。

→日程的には5日間位が必要である。このことにより、体験学習の趣旨・目的を生徒により理解させることが出来ると思うが……2日間の日程では難しい。

→職場体験学習評価簿に「感想の書き方」とあるが、そういった類のものは、提出されていないので、評価のしようが無い。当方としても、参加した生徒の意見は、今後の体験学習でいかして行きたいので是非聞きたい。又、先生方も、この職場で生徒が何を感じてきたのかを我々に教えてほしい。

→今回初めて当社で受入を実施しましたが、体験学習した生徒に少しでも役立ってくれば幸いです。できれば、もっと積極的に先輩達に質問をぶつけてほしいものです。例えば、事前に受入先の業種及び業務内容を説明していただき、質問事項を作成しておいてはどうでしょうか。

→大変良い事だと考えますので生徒数も減り大変かと思いますが、上高の存続とあわせて継続する様希望します。

→受入側の準備が不十分で、本人の思うような体験学習はさせてやれなかったと思う。また、土木工事のため、危険が伴うので、体験してもらえることが少ないのもあり、今後の課題にさせていただきます。

→地元企業としての責任を考えているので全面的に協力する。

→施設側とし体験学習の趣旨、目的は理解できるが生徒を中心に考えてみると、この短期間で何を学べるだろうか？と感じる部分もある。生徒には、この様な機会を増やし、企業を固定させずにいろいろな方法で学習させることによって進路選択の幅も広がり、地域企業の理解及び職業観も深まるのではないかと思います。

→中学生の体験学習とは違って、高校生ともなれば、真剣さや意気込みが強く伝わってきます。又、大人に近い判断力も持っていますので、対応の仕方いろいろ考えてやることでしょう。そういう意味から考えたら、高校生の体験学習はそれぞれの職場で受け入れやすいと思います。高校生にとっては、学校とは違う世界で、物事を一生懸命取り組む経験から、沢山学ぶものもあるかと思います。ずっと続けられるといいですね。

→当社はサービス・接客が主体となる業務ですので、性格等、明るくはっきりとした生徒を人選していただければ助かります。又、2日間という短期間で生徒を評価するというのは困難であると思います。

→当社としましては、地元の子ども達ですので、いくら忙しくても地元発展のためでしたら、いくらでも協力をおしみません。社員全員、心、あたたかく迎えていきたいと思ひます。

職場体験学習 生徒の感想(抜粋)

- ・自分で何でも積極的に行わなければならないこと、みなさんは誰にも言われず普通に仕事をやっていて凄いと思いました。
- ・「いくら仕事ができても、人間関係がだめなら使えない」と言われ、この言葉に感動しました。
- ・とても充実した2日間で、この経験を将来に生かしてやっていきたいと思う。
- ・仕事というものは、簡単ではないということがひしひしと身にしました。
- ・職場は、職員によって、仕事が好きだったり、楽しくなかったりすることがわかった。
- ・お金を稼ぐということは、難しく、楽なものじゃないということである。
- ・最初はあまり行きたくなかったけど、行ってみると楽しかったと思う。
- ・自分は、この仕事をナメていたとおもった。自分は今まで思っていたこの仕事を考え直そうと思った。自分はこの仕事を2日やり遂げて精神的に強くなったと思う。やり遂げてよかった、勉強になったと思った。
- ・2日間の体験をいかし、進路をはっきりと決めたいと思った。
- ・お客さん相手のお仕事だから、本当にお客さんにあいさつするのは大切。あと、愛想もよくないといけないなって思った。
- ・立ち仕事はしんどい。
- ・立ちっぱなしでやる仕事だから疲れた。
- ・周りの人たちが話しかけてくれて楽しかった。
- ・みんな忙しそうだったけど、疲れた感じをあまり見せないから、自分も頑張れた。
- ・いろいろ大変だったけど、みんな優しくしてくれて楽しく仕事のできたので良かった。
- ・時間がものすごく長く感じた。
- ・本当に大変な2日間で死んでしまうかと思った。
- ・あと何日かいたかった。
- ・今まで、仕事というものを、もっと簡単な事だと思っていた。でも、この2日間働いて今まで思っていたこととは全然違って、大変だということが分かった。
- ・終わってみると、大変だったけどいい経験をしたと思う。
- ・最初に行きたくなくてどうしようもなかったけど、行ってだんだん慣れてきた時に何もイヤとか思わなくなった。もう少しいたかった。2日間楽しかった。
- ・2日間はすごくみじかくて、もっといたかった。
- ・本当はもっと長い方がもっとうれしいなあと思いました。
- ・これからの自分の進路に向かって、いろいろな面で努力していきたいと思った。
- ・本当にやっていることを自分の体で体験できたことは、本当に自分にとってプラスになったと思う。この仕事に対する自分のハートがめらめらと燃えてきた。
- ・職員の人たちに「しっかりと勉強すれや。」と言われ、猛勉強していきたいと思った。
- ・たぶん何人かは、何で職場体験をやんねえばなんねーのかと思っている人もいたはずです。でも、自分にとっては、これまでにない、いい体験でした。一応、自分では一回り成長したつもりです。
- ・実際にやってみて、どの作業一つをとってもとても大変だった。作業ができたときには感動だった。
- ・仕事は慣れがかんじんだと思いました。慣れるまでは大変でしたが、終わりが近くなってくると仕事を覚えているのでけっこう楽に仕事をこなせました。とても楽しみながらできてよかったです。
- ・職場体験は予想以上に疲れた。たいした力仕事はしていないが、集中力がある仕事ばかりで精神的にやられた。さすがに2日間の労働はきつかったけど、いい体験になった。
- ・職員の方が、毎日している仕事のいくつかを覚ええました。職員の方が優しく教えてくれたからだととても感謝しています。
- ・私の質問に真剣に受け答えしてくれ、とてもやりがいのある仕事だと気づきました。

特に指導されたこと

- ・子ども達と遊んで下さい。
- ・土を削って下さい。
- ・あいさつ。
- ・伝票の整理。
- ・元気良く。
- ・作業の内容や、やり方など。
- ・安全第一にやること。
- ・エンジンの分解。
- ・事故に気をつけること。
- ・第一に人命を助けて火を消す。消防士はオールマイティーでなければならない。
- ・声を出すこと。

職場の様子

- ・静かだったけど、どこかがおもしろい所がある。
- ・暑い。大変。女の人が多かった。
- ・みんな仲良さそうだった。
- ・わいわい。
- ・静かだった。皆さん真剣。
- ・みんな息がびったりだった。
- ・非常に良いところだった。職員がすごく良い人だったので、心地よかった。
- ・みんな忙しそうで、大変でした。
- ・かなりうるさい。
- ・みんないい人たちだった。
- ・とても明るくて楽しい職場だった。
- ・えらい1日目は忙しかった。
- ・ラジオがかかっていた。
- ・広そうに見えても、忙しくなるとやっぱり狭くて、けっこう暑かった。
- ・皆さん一生懸命。
- ・職人という感じがした。
- ・思っていた以上にとんでもなく忙しそうだった。
- ・女性ばかりの職場だったので驚いた。
- ・自由で良かった。
- ・楽しい。

苦しかったこと

- ・機械の操作がわからなかったこと。
- ・正座がきつかった。
- ・暑い。ずっと同じ作業ばかり。
- ・手が痛い。
- ・編み込みができなくて苦勞した。
- ・パソコンを見ていて具合悪かった。
- ・ずっと立ちっぱなしで大変だった。
- ・暑かった。ずっと立っているのが辛かった。
- ・夏の暑さ。
- ・ワックスがけ。
- ・暇なとき。
- ・立ちっぱなしだったから、足が痛かったこと。
- ・1日目の仕事。
- ・時間がたつのが遅かった。
- ・オーダー取りが難しかった。
- ・汚れたこと。
- ・仕事全般。

うれしかったこと

- みんなと遊べたこと。お友達になれたこと。
- 玉を発見したこと。
- みんな優しくしてくれた。
- 人の髪を洗えた。
- 2日目には大分慣れてきたこと。
- 職員が優しく教えてくれたこと。親切だったこと。
- 休憩時間。
- 休憩時間がいっぱいあったこと。
- タンク車に乗ったこと。
- 仕事があるとき。
- 職場の人と仲良くなれたこと。
- 1日目の仕事が終わった瞬間。
- ジュースをもらったこと。
- みんなすごくうれしかった。
- ほめられたこと。
- いろいろな経験ができたこと。
- ご飯を食べさせたこと。

気がついたこと

- みんなまじめだった所。一生懸命だったこと。
- 発掘はかなり大変だ。
- 野菜とか、思ったよりもすごい量の数だった。
- ミスはできない。
- 大変だった。
- 細かなところまできちんとやっている。
- 仕事はやっぱり難しい。
- 若い人がたくさんいた。
- シンナー臭い。うるさい。
- 思っていたより忙しい仕事だった。
- 魚屋さんが好きだと気付いた。
- 自分が思ってた以上につらかった。
- もうやりたくない。
- 職員間の人間関係。
- 疲れた。
- 思っていたより職員の仕事が大変だったこと。
- 職員の人がうれしかった。
- 老人を大切にすること。
- 先生方が子どもたち一人一人の動きをしっかりと見ていた。

自分のためになったこと

- いろいろと教えてもらったこと。
- 自分からすすんで仕事ができる。
- 全て。
- あまり1人で仕事をするのがなかったから良かった。
- 将来このような仕事をするかもしれないから、そんなことが役に立った。
- 仕事を覚えることができた。
- ひもの結び方と、安全第一。
- この仕事の大変さが分かった。
- 機械の使い方などを覚えられてよかった。
- 日焼けしてダンディーになった。
- 精神力。
- 根気がついた。
- 自分のめざす仕事は、やりがいがある仕事だと思った。
- 子どもへの指導方法。
- 普段経験できないことができた。

心残りなこと

- ・まだやりたかった。
- ・慣れてないから、ちょっと仕事が遅かった。
- ・完成したところを見れない。
- ・先生達がきたときに限って、仕事がなかったこと。
- ・積極的にもっと動けば良かった。
- ・もっと指示して欲しかった。
- ・もっといろいろな会話をしたかった。
- ・日数がもう少しあるといろいろなことが体験できた。
- ・もう少し声を出せば良かった。

北海道通信

職場体験学習を初開催
喜び、厳しさ味わう



上ノ国高校
12月17日(木)開催

本校は女子生徒を主体として、職場体験学習を初開催した。参加者は、本校の女子生徒36名、教員10名、保護者10名、計56名が参加した。

職場体験学習は、本校の女子生徒を主体として、12月17日(木)に本校の女子生徒36名、教員10名、保護者10名、計56名が参加した。参加者は、本校の女子生徒36名、教員10名、保護者10名、計56名が参加した。

職場体験学習は、本校の女子生徒を主体として、12月17日(木)に本校の女子生徒36名、教員10名、保護者10名、計56名が参加した。参加者は、本校の女子生徒36名、教員10名、保護者10名、計56名が参加した。

北海道新聞 11/17



本校の女子生徒

上ノ国高校の生徒
を撮る写真

「飽きた」
高3生



遺跡発掘もおもしろい? 上ノ国高生36人
11事業所で

上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。

上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。上ノ国高生36人が、11事業所で遺跡発掘を行った。

北海道新聞 11/17

進路便り no. 20

平成12年9月6日

北海道上ノ国高等学校進路指導部

～職場体験学習の報道について～

6月に行われた職場体験学習は、松山管内では江差南高校について2校目でした。道南では恵山・木古内・函館西などの高校で行われている程度ですが、これからは職場体験学習が全国的に広まっていき、ほとんどの高校生が体験することになるでしょう。

1・2年生は上ノ国中学校時代にも1日職場体験をしていますので、高校で再度体験することにより、進路について考えるチャンスが増えると思って下さい。

3年生は、職場体験で学んだことを思い出して、これからの進路活動に臨んで下さい。



職場体験学習派遣先一覧

- ①事務(三名)
若狭組：松田麻紀
安田組：片石圭
加賀谷産菜：澤村ひさ子
- ②販売(四名)
ショッピング小林：
扇谷未紀・大原恵子・
市山瑞希・布施ひとみ
- ③福祉(二名)
かみのくに荘：市山繁英・
川合博子
- ④保育(四名)
上ノ国保育所：末本忠英・
中村祐子・浅原あすか・
高橋のぞみ
- ⑤発掘(四名)

上ノ国高校職場体験実習

「社会に出たとき、きつと貴重な財産になります。」

六月二十日(火)二十一日(水)町内十六事業所において「企業などにおける体験学習を通して労働の喜びや厳しさを学ぶことにより、自己の能力・適正を知る態度を養う。併せて、地域の企業を理解するとともに地域社会との連携を深めながら社会生活に適応し、望ましい職業観・勤労観の育成に努める。」などの目的を持ち、上ノ国高校三年生三十六人が各自希望する職場へと積極的、意欲的に誇りを持って仕事に取り組んでいました。

発掘事務所(役場文化財課)

- 鈴木智幸・斉藤綾乃・
太田辰徳・宮津まゆみ
- ⑥消防(四名)
上ノ国消防署：大原巧海・
飛島知・鈴木伸・京谷慶太
- ⑦建築(四名)
若狭組：長谷川裕次郎
小林建設：鈴木道人
安田組：荒谷祐一
京谷建設：半田翔太郎

川合麻英・正田瑛奈

- ⑧レストラン(一名)
レストランもんじゅ：
正田琴惠
- ⑨食養(一名)
どばそば相家：山田剛悦
- ⑩美容(二名)
ヘアサロンユー：
川合麻英・正田瑛奈

⑪自動車整備(七名)

- 小林自動車整備工場：
斉藤繁成・田中利昇・
林悠平・久末至・福原寛・
藤田徳人・住吉幸人



先生も生徒も発掘体験

六月二十一日、上ノ国高校三年生四名が、職場体験発掘実習を行いました。
夷王山増幕の発掘には斉藤綾乃、宮津まゆみさんが参加、丁度掘り出されていた人の歯、漆塗りの盃、お金などを初めて見てびっくり。学芸員から説明を聞き、作業員さんと一緒に発掘。



向浜地区の調査はとても地味な仕事ですが文化財保護の最も基礎となる大切なもの、鈴木智幸・太田辰徳さんは、炎天下懸命に作業に取り組んでいました。

又これに先立つ六月十五日、松山管内新任教員十八名の体験発掘があり、上高から三人の先生が参加しました。
共通の話題で会話がはずんでるかな? 「先生ホネ見た?」「骨かった!」??とかネ。

広報かみかんだいふりより